

編集後記

1981年の新年おめでとうございます。野村氏の巻頭言にもあるように今年は国際障害者年（IYDP）です。昨年12月8—9日にはIYDP 日本推進協議会主催の「プレ国民会議」が、ほとんどあらゆる種類の障害者・関係団体を集めてひらかれ、大きな成果をあげました。今年は障害者の問題と共にリハビリテーションにも理解と関心の高まることが期待されます。

さて本号はリハビリテーション医学の最も根本的な問題である「機能回復のメカニズム」の特集です。機能回復は末梢神経・筋・骨組織などにも関係がありますが、今回は中枢神経系障害にしばりました。別府氏は、発芽現象を中心とした機能代償の形態学について、最近の研究の概観を下さいました。藤戸氏は、生理学の面から、シナプス結合の可塑性を豊富な実験データをもとに総括していただき、川村氏は運動学習の神経機構についてオペラント条件づけを中心にユニークな研究のまとめを書いて下さいました。小谷津氏の学習について考えるは、上記の3論文とはやや異なった心理学の角度からのアプローチで興味があります。学問的な香

りの高いこれらの論文をゆっくりお味わ下さい。

本号ではこの他、浅海氏他の重心動揺の研究、鈴木氏のリウマチの装具の生体力学の研究、澤村氏の股義足装着者の遠隔成績などの「研究と報告」にも重量感のあるものをいただき、また新年らしく、リウマチ・膠原病入門、リハビリテーション関連諸制度、リハにおけるコンピュータの応用の3つの講座もはじまりました。リハ交流セミナー'80の報告として小池氏から印象記を、また前号に紹介された身障害者実態調査について、石坂氏、調氏のお2人から批判も含めた感想をいただきました。

また本誌の発刊とはほぼ同時に第1回がひらかれた関東地方リハ医学懇話会もすでに29回を迎え、その記録が本号に掲載されています。この1月には30回記念の会を開くことになっており、この辺にも、小さいながら、リハビリテーションの芽が育ってきたことがうかがわれます。

国際障害者年のこの一年もよき年でありますように。

（上田 敏）

次号予告（第9巻第2号）

特集 ADL の評価

ADL 評価法をめぐって……………九州労災・リハ科 長尾 竜郎・他
小児の日常生活動作……………川崎医大・リハ科 長谷川 寿美玲
脳性麻痺児における ADL 発達評価…福岡県・粕屋新光園 姫野 信吉・他
当院における退院片麻痺患者 424 例の
追跡調査……………福島県・飯坂温泉病院 阪 本 次 夫
四肢麻痺者の生活環境調査……………総合せき損センター 赤 津 隆

巻頭言

理学療法，作業療法の大学教育化に
よせて……………金沢大・医療短大 奈 良 勲

研究と報告

リハビリテーションを行った脳卒中患者の
生命予後……………福島県・飯坂温泉病院 阪 本 次 夫・他
Duchenne 型筋ジストロフィー症患者の
歩行分析……………国療・神経センター 豊 島 英 徳・他

講座

リハ医のためのリウマチ・膠原病入門
2. 慢性関節リウマチ(1) 原因論
……………聖マリアンナ医大・内科 東 威
活用すべきリハ関連諸制度 2. 居宅サービス
の現状と問題点：リハ医の立場から……………横浜市大・リハ科 大川 嗣 雄・他

一頁講座

リハにおけるコンピュータの応用
2. コンピュータの基本構成……………労災義肢センター 土 屋 和 夫

印象記

国際義肢装具連盟（ISPO）世界会議……………横浜市大・リハ科 伊 藤 利 之

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 壽 榮 夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加 倉 井 周 一
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
斉 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
福 井 圀 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 敏
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩

（細田，山田）